

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教育推進・学生支援機構基盤教育センター 企画運営会議

(責任者名) 額 守

(役職名) 教育推進・学生支援機構副機構長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<b>学内からの視点</b>	
プログラムの履修・修得状況	教育推進・学生支援機構基盤教育センターに設置された部会において、プログラムの履修・修得状況の分析を実施する。全学生向け教育学習支援システム(LMS)の活用により、受講者ごとの課題への回答状況を把握している。本プログラムは、全学共通科目として開講している「データ科学基礎」を必修要件としており、「データ科学基礎」は令和6年度より全学部必修の授業科目とすることを予定している。
学修成果	教育推進・学生支援機構基盤教育センター 数理データサイエンスAI部会において、受講者に対して実施している授業評価アンケートの結果を分析することによって、学生の理解度を把握することができる。また、学生の所属・学年別の修了状況や、教育学習支援システム(LMS)上で実施した課題への回答状況を分析することにより、授業の難易度に問題が無いかを確認している。これらの分析結果は、教育推進・学生支援機構 企画運営会議と共有し、本教育プログラムの評価・改善に活用する。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業評価アンケートを通じて、学生の理解度を把握している。授業内容を理解できたかを問う設問において、80%の受講生が「あてはまる」または「ややあてはまる」と回答したことから、授業の難易度は適切であると考えられる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業評価アンケートを通じて、学生の知的関心の高まりや達成感が得られたかを確認している。令和6年度から全学部必修化を予定している。全学部の1年生を受講対象とするため、後輩への推奨度は明示的には調査していないが、上述の授業評価アンケートの設問や自由記述式のコメントから、後輩等にも受講を推奨できると評価している受講者が多いと考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和6年度から「データ科学基礎」を全学部必修科目とすることを決定しており、履修者数、履修率の向上に向けて取り組んでいる。 また、教育推進・学生支援機構基盤教育センターに設置された部会において授業方法や教材の見直しを行うことで、教育の質の確保を図り、学生の修了率を向上させる。
<b>学外からの視点</b>	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	各学部において、卒業時に就職先の調査を行っている。本プログラム開始は令和4年度であり、卒業生が社会に出るのは令和8年度以降となる見込みだが、全学的な卒業調査の実施の際に可能な範囲で活躍状況等の調査を実施する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	令和3年度に監査法人トーマツに委託し、東海地域の企業7社(支社を含む)に対して大学の数理・データサイエンス・AI教育への期待、協業の希望等についてヒアリングを実施した。得られた意見は、今後の地域連携体制の構築や、カリキュラム・教材の改善の参考とする。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	各講義において情報科学の社会とのつながりについて最新の事例に基づいて紹介し、学生の動機づけを図っている。データサイエンスを学ぶことの楽しさや意義を学生がより理解できるような授業内容としている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	教育推進・学生支援機構基盤教育センターに設置された部会において、学生の修了状況や、課題の解答状況、授業評価アンケートの結果の分析を行い、「分かりやすさ」の観点から教材や授業実施方法の改善策を検討している。また、定期的に授業担当教員へのFDを行うことにより、授業の水準の維持・向上を図っている。